

「真の幸い」

2015年08月08日

ルカによる福音書 11章 27節～28節。 イエスがこれらのことを話しておられると、ある女が群衆の中から声高らかに言った。「なんと幸いなことでしょう、あなたを宿した胎、あなたが吸った乳房は。」しかし、イエスは言われた。「むしろ、幸いなのは神の言葉を聞き、それを守る人である。」

主イエスの「神の国」の宣教は民衆に大きな感激を与えた。地べたを這い回るような生活を強いられていた民衆にとって、主イエスの言葉と業は生きる喜びを与えたからである。権威あるファリサイ派の人々を恐れることなく、痛烈に批判する言葉を溜飲が下がる思いで聞いていただろう。その中に、一人の女性が感極まったのであろうか、大声で「なんと幸いなことでしょう、あなたを宿した胎、あなたが吸った乳房は」と叫んだ。母親は立派な子どもを持てば、それが誇りとなる。主イエスを見、聞いて、こんな素晴らしい子どもを宿し、乳房を含ませた母親は、何と幸いであるかと羨んだ訳である。彼女がどれだけ主イエスを深く慕い、尊敬していたかが分かる

彼女の感嘆の叫びに対し、主イエスは「むしろ、幸いなのは神の言葉を聞き、それを守る人である」と応じられた。主イエスの激しく、厳しい宣教生活を伝え聞いた母マリアと兄弟たちは故郷ナザレで平穏な生活をさせようと迎えに来た。その時、主イエスは「わたしの母、わたしの兄弟とは、神の言葉を聞いて行う人である」と答えている。また、マタイ福音書の「山上の説教」の最後で、「そこで、わたしのこれらの言葉を聞いて行う者は皆、岩の上に自分の家を建てた賢い人に似ている。雨が降り、川があふれ、風が吹いてその家を襲っても、倒れなかった。岩を土台としていたからである」と語っている。

主イエスは神の言葉を聞いて、行うことを常に求め、そこに真の幸いがあると繰り返している。神の言葉とは「わたしたちの神である主は、唯一の主である。心を尽くし、精神を尽くし、思いを尽くし、力を尽くして、あなたの神である主を愛しなさい。」そして「隣人を自分のように愛しなさい」の二つの律法に集約されていると言うことができる。上なる唯一の神を信じ、愛する垂直の関係の縦棒、横にいる隣人を自分のように愛する水平の関係の横棒が組み合わさった十字架に譬えられている。この譬えは的を射た説明であろう。言葉としては理解し、納得することができる。

ところが、神を信じ、愛することはどういうことなのか、隣人を自分のように愛することとは具体的にどう生きることなのか分からない。だから、主イエスから神の言葉を聞き、それを行えと言われても、戸惑ってしまうのが実情である。そして更に、そのように生きることにはどのような意味があるのかという疑問もある。不条理に生かされている者にとっては、この疑問は深まる。旧約聖書のマラキ書 3章 14節、15節には下記のような呻きの言葉を記している。「神に仕えることはむなし。たとえ、その戒めを守っても／万軍の主の御前を／喪に服している人のように歩いても／何の益があろうか。むしろ、我々は高慢な者を幸いと呼ぼう。彼らは悪事を行っても栄え／神を試みても罰を免れているからだ。」しかし、マラキは3章 17節bで「彼らはわたしにとって宝となると／万軍の主は言われる。人が自分に仕える子を憐れむように／わたしは彼らを憐れむ」と言う。神の憐れみを知る者は神の言葉に聞き従い、その者は神の宝とされる。主イエスの十字架の無償の愛を知る時、神に愛されている自分自身を肯定し、隣人を共にある者として受け入れる。真の幸いは不条理の中にあっても、この「福音」を生きようとすることである。